

新しい留学プログラムとしての世宗プログラムの紹介

日本語教育部
同

四方田千恵（世宗プログラムコーディネーター）
金 蘭美

世宗プログラムは正式名称を「横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム」といい、その名の通り、韓国の世宗大学校と本学教育人間科学部の部局間協定に基づいた、1年間の授業料徴収型短期留学プログラムである。世宗生は日本語科目 14 単位、専門科目 4 単位の合計 18 単位を科目履修するとともに、本学の学生との交流を通じて、日本を理解した有為な人材を育成することを目的としている。世宗生は 18 単位分の授業料を横浜国大に納め、その取得単位は世宗大学校で互換単位として認定される。プログラムは半年間の試行的実施を経て、2013 年度から正式に開始、4 月～2 月までの 11 ヶ月間、34 名の学生を受け入れた。

プログラム終了時に行った 24 項目のアンケートに抛ると、「24. 世宗プログラムに参加してよかったと思いますか。」という質問に対しては「とても良かった」(12 名)「良かった」(21 名)と 94%が肯定的な回答を寄せている。また、「21. このプログラムに参加したことによって何が得られたと思いますか。」という質問(複数回答)に対しては「日本語能力が向上した」(22 名)、「日本文化・日本社会に対する理解が深まった」(19 名)に引き続き、「異文化に対して寛容になったり、グローバルな視野が持てるようになった」(14 名)という回答が多かったことは喜ばしいことである。但し、「12. あなたは日本人と積極的に交流しましたか。」という問いに対しては「全くしなかった」(3 名)、「あまりしなかった」(9 名)と約 3 割の学生が否定的な回答をしており、今後改善の余地を必要とする点である。これらのアンケート結果に関しては、近々報告書としてまとめる予定である。

一方、このプログラムの特徴として、14 単位分の日本語科目を履修するほか、4 単位分の専門科目の履修が義務付けられていることが指摘できる。実際 4 月入学時における世宗生の日本語レベルは初級後半から上級まで千差万別であり、日本語による専門科目の受講が不可能なレベルの学生も多く存在する。そのため、前期・後期ともに韓国人講師による世宗生を特に意識した専門科目を各 1 コマずつ開講し、初中級の学生に対応するという方策を取った。前期開講の金蘭美講師による「日韓文化事情」に関しては結果的に世宗生全員が履修することとなり、ホームルーム的な役割も果たすことができた。以下、その内容を紹介しておく。(文責：四方田)

「日韓文化事情」は世宗プログラムの一環として、教育人間科学部の必須科目として開講された授業である。実施期間は 2013 年 4 月～7 月で、全 15 回の授業を実施した。参加者は世宗プログラムの韓国人留学生 34 名および日本人学部生 3 名(聴講生 1 名を含む)の

計 37 名である。授業の目的は、日本で生活する上で必要な日本の文化を学び、それによって日本語や日本人に対する理解を深めていくこと、また、自国の文化への理解を深めることである。授業の前半は、教師が日本文化に関する課題を与え、グループで話し合い、意見を発表する形式で行い、後半は、各グループで日韓文化の比較をテーマとしたプレゼンテーション形式で行った。学生たちの日本語レベルにかなりのばらつきがあることを考慮し、日本語レベルの低い学生でも話し合いに参加できるように、配布資料は全て韓国語と日本語の 2 種類を用意し、指示や説明も両言語で行った。

前半の授業では大橋敏子ほか著『外国人留学生とのコミュニケーションハンドブック：トラブルから学ぶ異文化理解』（アルク、1992 年）より抜粋した、日本人との接触場面において文化的な違いにより生じた摩擦や誤解など、トラブルに関するエピソードを使用した。学生たちには日本人と留学生の相互の立場になってもらい、トラブルの原因とは何か、どのようにすれば解決できるのかを考えさせ、話し合うようにした。その後、活動の総括として、他の留学生や後輩にどのようなアドバイスをしてあげればよいかを発表してもらった。

後半の授業では、文化の違いに着目して日本と韓国を比較するようにした。テーマは、「若者の恋愛観」「大学生の余暇の過ごし方」「アイドル」「女性の化粧の仕方」など、大学生らしいものから、「芸者と妓生（キーセン）の違い」「日本の童話と韓国の童話」「日韓の宗教」など、一歩踏み込んだ文化の違いを扱ったテーマまで多種多様であった。最初は、韓国語のみの発表が多かったが、徐々にスライドや資料を日本語で作成し、日本語で一部発表するなど、日本人学生への配慮が見られるようになっていった。

学生たちからは「日本と韓国の文化の違いが分かってよかった」「自国の文化への理解が深まった」「さまざまなテーマで楽しかった」「プレゼンをすることで自信がついた」などの肯定的な意見や、「日本人の学生がもっと参加してほしい」「日本人ともっと交流したかった」などの積極的な声もあった。日本人の学生の参加に関しては、教師としてもより多くの学生に来てほしいだったが、3 人しかおらず非常に残念に思うところである。日韓関係の難しい今だからこそ、より多くの学生に等身大の隣国の人と交流をもってもらいお互いに理解してもらうことが重要である。世宗プログラムがそのきっかけとなり今後さまざまな交流が生まれていき、教師としてその一端を担うことが出来れば幸いである。

（文責：金蘭美）